

平成25年11月7日  
国土交通省海事局

## アジア太平洋地域における外国船検査（ポートステートコントロール） 協力20周年を記念したフォーラムの結果概要について

本年は、東京 MOU<sup>※1</sup>が締結されてから20周年にあたることから、これを記念して、「東京 MOU 締結20周年記念フォーラム」が10月28日（月）に開催されました。これは、東京 MOU の総会にあたる第24回 PSC 委員会の東京開催の機会に合わせて企画されたもので、国際海事機関（IMO）から関水康司事務局長が参加されました。

※1 東京 MOU とは、

アジア太平洋地域における PSC（ポートステートコントロール）の協力体制を確立するため、1993年12月東京において「アジア太平洋地域における PSC の協力体制に関する覚書（Memorandum of Understanding on Port State Control in the Asia-Pacific Region）」が関係国の間で合意され、この覚書は東京で合意されたので「東京 MOU」と略称されています。

### 第1部 アドレスセッション

フォーラム前半のアドレスセッションでは、榎野龍二 国土交通審議官の開会挨拶にはじまり、関水康司 IMO 事務局長が「IMO の活動と東京 MOU に期待すること」について、岡田光豊 東京 MOU 事務局長が「東京 MOU の20年の歩み」について、それぞれ基調講演をされました。（別添参照）

次いで東京 MOU 加盟国を代表して、オーストラリア海上安全庁（AMSA）のミック・キンレイ次長（Mr. Mick Kinley）より、東京 MOU 加盟国が20年の歩みの中でアジア・太平洋地域の船舶及び人命の安全及び海洋環境の保全に貢献してきたこと、オブザーバーを代表してパリ MOU のリチャード・シフェリー事務局長（Mr. Richard Schiferli）より、ヨーロッパ地域とアジア・太平洋地域の連携により、PSC の着実な前進が図られたこと、また、産業界を代表して日本海事協会の米家卓也副会長から、東京 MOU 加盟国の PSC を通じた協力により、船級協会の業務の向上が図られたことなどの祝辞が述べられました。

## 第2部 ディスカッションセッション

フォーラム後半では、産業界の国際団体である国際海運会議所（ICS）、国際独立タンカー船主協会（INTERTANKO）、国際乾貨物船主協会（INTERCARGO）、アジア船主協会（ASF）、国際船級協会連合（IACS）、アジア船級協会連合（ACS）の参加のもと、産業界との意見交換（ディスカッションセッション）が行われました。海運業及び船級協会の立場から、産業界としてPSC検査官の訓練に対して技術協力を提供するなどの協力を進めるとの意向が示されました。また、拘留処分の際に当事者に弁明の機会が与えられないケースがあることについて手続きの改善を求める要望が出されました。この他日本からはバラスト水管理条約<sup>※2</sup>に関連して、バラスト水のサンプリング及び分析に関する日本での試みについて紹介し、産業界と意見交換を行いました。

### ※2 バラスト水管理条約とは、

海洋生態系保全のため、国際航海をする船舶に積み込まれるバラスト水により有害水生生物が越境移動しないよう、バラスト水中の水生生物を一定基準以下にして排水することを求めて、2004年2月に採択された「船舶バラスト水及び沈殿物の制御及び管理のための国際条約」です。

### (参考)

## 20周年記念フォーラム プログラム 10月28日(月) 午後

### 第1部 アドレスセッション (13:45~15:00)

- ・開会挨拶 榊野龍二 国土交通省 国土交通審議官
- ・基調講演1 関水康司 IMO事務局長
- ・基調講演2 岡田光豊 東京MOU事務局長「東京MOUの20年の歩み」
- ・祝辞1 オーストラリア海上安全庁 (AMSA) : ミック・キンレイ次長 (Mr. Mick Kinley)
- ・祝辞2 パリ MOU : リチャード・シフェリー事務局長 (Mr. Richard Schiferli)
- ・祝辞3 国際船級協会連合 (IACS) : 米家卓也日本海事協会副会長

### 第2部 ディスカッションセッション (15:30~17:00)

- ・テーマ1 バラスト水サンプリングの試行的運用
- ・テーマ2 PSC検査官の訓練と産業界との協力 他

問い合わせ先： 国土交通省 海事局 総務課外国船舶監督業務調整室 伏見 吉村 (代表) : 03-5253-8111 (43-176, 43-177) (直通) : 03-3580-5090 (FAX) : 03-5253-1644
---



フォーラム風景



梶野国土交通審議官 関水IMO事務局長



歓迎レセプションで挨拶する中原政務官

(添付参考資料)

## 基調講演の概要

### 【基調講演 1】 関水康司 IMO事務局長

○IMO の関水康司事務局長から、東京 MOU 締結 20 周年を迎えるにあたって祝意とこれまでの活動に対する感謝の意が表明された。 主な発言は以下のとおり。

- ・ 1993 年の東京 MOU 締結の際には、私自身もその場に立ち会っており、その後の 20 年間の長きにわたる活動を思うと感慨深いものがある。発足当時は IMO を退職された故篠村義夫氏が事務局長を務められていたが、今日の東京 MOU の発展ぶりを喜んでくれていると思う。
- ・ 東京 MOU 域内では、この間の検査件数は大幅に増加し、その活動が順調に発展してきたことがうかがえる。また、拘留率 (Detention Rate) が大幅に下がってきているが、これは国際航海に従事する船舶の質の向上に PSC が果たしてきた重要な役割を示しているものと思われる。
- ・ 域内の PSC 検査官が調和のある活動を行っていくことが必要であり、そのためには技術協力の推進が重要な鍵となっている。 IMO としても引き続き技術協力の推進に力を注ぎたいと考えている。
- ・ IMO では、2014 年の World Maritime Day のテーマとして「IMO 条約の効果的な実施」を掲げる予定であるが、このためには PSC の果たす役割は非常に重要である。東京 MOU も今後の 20 年を考える時期に来ており、東京 MOU 加盟各国も政治レベルへの働きかけを強めることが求められる。
- ・ 東京 MOU 締結 20 周年を迎えるにあたってお祝いを申し上げるとともに、これまでの有効な地域協力活動に対し感謝を申し上げます。

### 【基調講演 2】 岡田光豊 東京MOU事務局長

○東京 MOU の岡田光豊事務局長から、東京 MOU の過去 20 年の歩みについてプロジェクターを使用した画像を中心に報告がなされた。